

教育に関する事務の管理及び執行状況に
係る点検評価報告

(平成23年度事業)

平成24年8月
酒田市教育委員会

目 次

1	点検・評価制度の概要	1
2	点検・評価の対象	1
3	学識経験者の知見の活用	2
	○ 酒田市教育振興基本計画体系図	5
4	点検・評価の状況	6
I	明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ	
(1)	確かな学力の向上	
	・ 学力向上対策の充実	6
	・ 時代に対応した教育の推進 (国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育)	7
	・ 読書活動の推進	8
	・ 特別な教育ニーズへの推進	9
(2)	豊かな心と健やかな体の育成	
	・ 体験活動、交流活動の推進(1)	10
	・ 体験活動、交流活動の推進(2)	11
	・ 相談支援体制の充実	12
	・ 食育の推進	13
(3)	家庭、学校、地域との連携	
	・ 家庭教育の支援	14
	・ 地域教育力の向上・地域活動の活性化	15
(4)	教育環境の整備	
	・ 学校施設の整備	16
	・ 学校規模の適正化の推進	18
	・ 通学の安全確保	19
	・ 学校ICT環境の整備充実	20
	・ 教育の機会均等	21
(5)	信頼される学校、開かれた学校づくりの推進	
	・ 教職員研修等の充実	22
	・ 学校運営の公開と学校評価システムの推進	23
	・ 特色ある学校づくりの推進	24

II 世代を超えてまなびあう

(6)生涯学習の充実

- ・ 生涯学習社会の基礎づくり・学習機会の提供・地域活動の活性化 25
- ・ 学習団体及び社会教育関係団体への支援と連携 26

(7)図書館活動の充実

- ・ 図書館機能の充実 27
- ・ 光丘文庫の保全と活用 28
- ・ 子どもの読書活動の推進(再掲) 29

IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす

(10)歴史・文化遺産の保存と活用

- ・ 文化財等の保存及び活用 30

<参考資料>

- ・ 地域の教育力向上事業実績 31
- ・ 生涯学習推進講座開催事業実績 32
- ・ 東北公益文科大学市民講座開催事業実績 33

1 点検・評価制度の概要

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」という。）」第27条第1項の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないことに基づき、作成するものである。

これにより、効果的な教育行政の推進を図るとともに、住民への説明責任を果たすことを目的とする。

《参考》

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

- 第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の対象

平成23年度の教育委員会の権限に属する事務について、その管理及び執行の状況を対象とする。

なお、平成22年4月策定の酒田市教育振興基本計画に記載されている施策のうち、教育委員会所管の施策、今後おおむね5年間で重点的に取り組む施策を中心に、昨年度までと同様の25施策を選定した。

※酒田市教育振興基本計画体系図は、P.5のとおり。

3 学識経験者の知見の活用

点検・評価にあたっては、法第27条第2項の規定により、学識経験者の知見の活用を図ることとなっているが、学識経験者2名より各分野に関して意見をいただいた。

〔学識経験者〕

市立第六中学校元校長 名和 弘
東北公益文科大学准教授 和田 明子

教育に関する事務の管理及び執行状況に係る点検評価についての意見

I 評価について全体を通じた意見

「酒田市教育振興基本計画」記載の施策のうち、25施策を選定し点検評価を行うという方式をとっているが、基本的に妥当な方式であると考えられる。

行政評価は、施策の目的・目標の管理のため、事業の有益性（公共性）、効率性、有効性の検証等により実施するものであるが、施策、事業目標の吟味を常に合わせて行うことを望みたい。

特に、「施策」（＝事業の目的及び目標）の達成度を点検・評価するという姿勢を鮮明にするために、「事業の目的及び目標」（様式）と「施策」（教育振興基本計画）を対応させる、また、「事業の目的及び目標」（＝施策）をどの程度達成できたのかを評価し、その際、どうしてそのように判断したのか、根拠となる数値データ、または質的説明を記載する等の様式の改善等を検討されたい。

表記には具体性が見られるようになってきており、取組みの課題と方策が明確になっている。ただし、事業によっては、振興計画中間期の5年次までの計画を策定し取り組むことで、より目標に到達しやすくなるのではないかと考える。

事業の効果についてはやや理解しにくい面があり、また評価についてもできるだけ具体的な根拠を示すなどの方策により改善を望みたい。

評価の数値化についてはさらに進めて欲しい。指標には様々あると考えられるが、一つでも多くの事業で数値化が進むことを期待したい。

事業展開に際し、市民に周知を図るなどの広報活動が重要であり、工夫を凝らし、できるだけ機会を捉えるなど前向きに取り組んでいただきたい。

II 各事業についての意見

1. 確かな学力の向上について

(1) 学力向上対策として小中スクラム事業を立ち上げたのは評価できる。中学校サイドのリードおよび情報発信等の姿勢が事業の成否にかかわることから、適切な働きかけが必

要である。組織的な取組みにより成果をあげてほしい。

(2) 学校訪問、学力向上対策事業の成果が読み取りにくい。各学校の新学習指導要領に対する取り組みの様子等を数値化するなど、評価法には工夫を要する。

(3) 10年以上実施してきた施策（はばたきなど）については、内部評価のみならず外部評価（事業の効果、重要性の評価）も取り入れて、次期、教育振興計画策定へ準備のためにも検討する時期にきているのではないだろうか。

(4) 酒田市の長年の教育の重点である読書活動は、「酒田市子ども読書活動推進事業」による事業展開や本の充足率の向上などにより、年々進展しているように思われる。図書専門員の研修など評価できる事業である。

(5) 学習センターとしての学校図書の利用頻度なども入れてはどうか。

2. 豊かな心と健やかな体の育成

(1) 児童・生徒の体験交流活動を公的機関で事業実施する場合、目的やねらいを精査し、市の課題に対処した本市ならではの事業に高めて欲しい。少子化時代に、児童・生徒の体験、経験不足、コミュニケーション能力の欠如が叫ばれるなか、異年齢集団の生活を通し、特にサブリーダーの育成、子どもたちの健全育成など、社会教育ならではのねらいをもって進めてほしい。

(2) 不登校児童生徒の割合の増加は残念である。保護者、学校、諸機関が連携し、克服できるよう支援してほしい。

(3) ふれあい教室により、5名の生徒が登校できるようになったことは大いに評価できる。

(4) 学校給食について、「地産地消」や「食育」に努めていることは高く評価できる。今後は総合的な栄養面だけでなく、種類や量にも十分配慮いただけるとさらに満足のいく給食になるのではないか。

また、食については家庭の取り組みが不可欠であり、保護者が関心を持てるような啓発が必要である。そのために、PTA研修や年間を通して食に取り組むような働きかけをしてほしい。

3. 家庭・学校・地域との連携

(1) 生涯学習関係の事業については、震災の影響もあり参加者の落ち込みも見られるが、事業の内容を精査し、改善するような検討も必要である。

(2) 少子高齢化時代に、地域活性化や高齢者の生きがいづくりのためコミュニティ活動が重要となっているが、コミュニティ振興会への委託事業については、企画立案する人材や地域のリーダーづくりに苦慮しており、現場に対する社会教育指導員のさらなる支援等、打開策を期待したい。

(3) コミセンでの事業は事業数、参加者ともに評価できるが、事業内容で地域性を出せずにいるところも見受けられるため、助言をお願いしたい。

4. 教育環境の整備

(1) 学校の耐震化および施設整備は、年次計画に沿って計画的に進められており、評価できる。

(2) 学校統合については、統合の事前事後の地域との話し合いを適切に行い、丁寧に進めてほしい。

5. 信頼される学校、開かれた学校づくり推進

(1) 教員の研修についての評価も入れていただき、大綱を明確にして実施してほしい。

(2) 学校評議員制度については各校で前向きに取り組み、また学校評価についても全学校で実施しており、開かれた学校づくりという点で評価できる。各校が抱える課題、市の教育課題を把握できるよい機会であり、各評議員の意見を集約する等も考慮してほしい。

6. 生涯学習の充実

(1) 社会教育の施策はもともと成果が出るまでに長期間を要すること、また他の部署との横断的な調整が特に求められることに加え、近年の社会情勢の変化もあり、目標の設定が非常に困難な状況にある。「民間でできないことをする」という方針を再確認した上で、今後のあり方を再検討してほしい。

(2) 各講座とも満足度が高く、また3つの講座がサークル化したことは評価できる。今後とも課題解決を図り、さらに実効ある事業をめざしてほしい。

(3) 講座終了後はサークル化への道筋を明確にし、講座終了後も自主的な活動が見られることを期待したい。

7. 図書館活動の充実

(1) 「事業の効果」に具体的な取組みが見られ、事業の理解や評価の根拠がわかりやすくなっている。

(2) 「酒田市子ども読書活動推進計画」のもと、各事業が利用者、参加者の増加とともに実効あるものになっているのは評価できる。

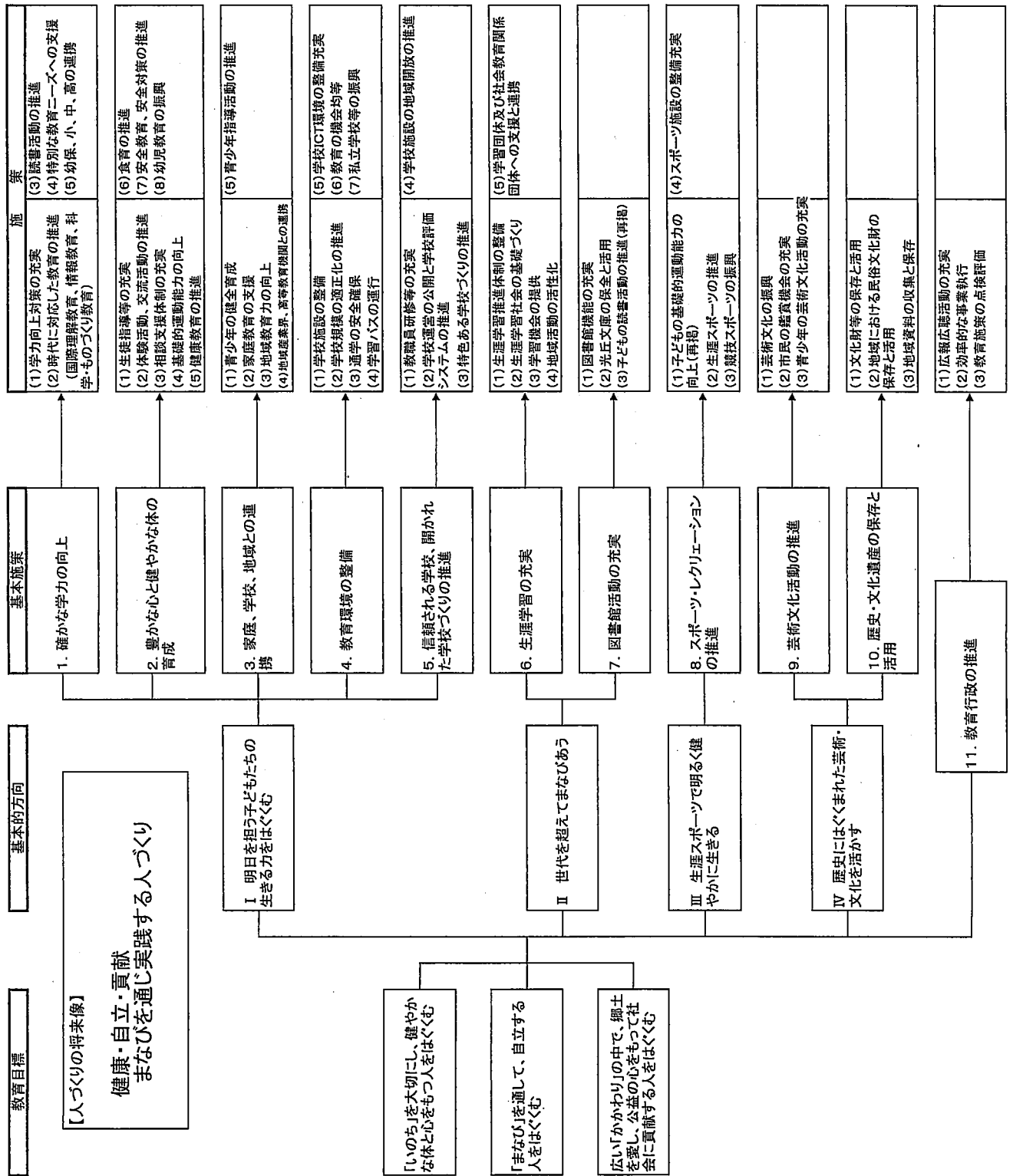
(3) 講演会の実施等、新しい視点で事業が組み込まれているのは評価できる。

10. 歴史・文化遺産の保全と活用

(1) 次の人材の育成のためにも、地域伝統芸能に接する機会を持てるよう中学校、特に高校生のサークル活動などを働きかけてほしい。

(2) 郷土資料収集、さらには情報公開の一環として、市がこれまで発行してきた各種計画行政資料等を収集・配置すると、市民の利便性がさらに増すのではないかと。

酒田市教育振興基本計画体系図



基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	1. 確かな学力の向上
施策	学力向上対策の充実
担当部署	学校教育課
事業の目的及び目標	学習指導要領に対応した授業等の改善、少人数指導等による指導法の改善を通し、小中9年間を見通したまなびを推進することで、「生きる力」を支える「確かな学力」の育成を目指す。
H23年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○学校訪問指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営訪問で、年度始め、年度末に各小・中学校を訪問し、教育課程の編成・実施・管理、教育活動の計画や反省等、全般にわたり実態を把握し、指導行政に反映させるとともに、計画訪問では、学校教育の重点にかかわる問題点を中心に研究協議を深め、課題解決のための方向付けを示唆した。また、要請訪問では、各小中学校で実施した47回の授業研究会に延べ149名の指導主事等を派遣し、授業改善に向けた指導・助言を行った。 <p>○学力向上対策事業【予算額10,130千円】【決算額10,069千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校4年生から中学3年生までの全児童生徒を対象に、学力検査を実施した。また、その結果をもとに小中学校長会の検討会で調査分析し調査報告書を作成した。 ・小中のつながりを意識した算数、数学の授業改善・学習意欲向上のための授業研究会を行った。 ・読書指導や図書館運営の充実を図るため、研修会を実施した。 <p>○教育研究所運営事業【予算額936千円】【決算額680千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科・領域毎の研究部で授業研究会や研修会を合計101回実施した。
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校の要請に応じ、指導主事が授業研究会に参加し、学校の状況に応じて、つけたい力の明確化、単元構成の工夫、思考力につなげる言語活動の充実など、新学習指導要領に基づく授業のあり方について指導助言を行い、主体的な学びを育む単元構成に工夫が見られるようになった。 ・学力検査を実施することにより、各担任、学校が個々の児童生徒やクラス、学校全体、そして市全体の学力状況(学習の到達状況)を把握できた。また、これまでの学習指導の検証と改善、前年度の当該学年の結果を踏まえた指導方法の改善に活用された。小中スクラム事業では、研究推進校をお願いし、算数・数学の学習意欲の向上につながる指導の改善が図られた。算数で習得した内容を総合的な学習や日常生活に活用する能力も育てることができた。 ・教育研究所の研究部とタイアップして、使いやすい図書館づくりを行うとともに、各教科と図書館のつながりや図書専門員と教員の連携の在り方等について学びを深めた。また、新学習指導要領の趣旨について、文部科学省の調査官を招聘しての研修会を通して共通理解を図ることができた。
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の完全実施に伴い、単元構成を見通しての指導の在り方、思考力・判断力・表現力についての評価の在り方等、確かな学力を身に付けさせるための具体的な内容について今後も指導していきたい。 ・小中スクラム事業を国語、算数・数学、外国語の3教科に増やし、小中のつながりを意識した授業づくりのあり方について理解を深めるとともに、昨年度の成果を市全体に広めることを通して、授業力向上につなげていきたい。 ・教育研究所では、国語、社会、算数・数学、理科、英語部会を重点部会として研修活動の充実を図るとともに、特に24年度は、小学校外国語活動の授業改善に向けての研修やテキストの提供に力を入れていく。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	1. 確かな学力の向上
施策	時代に対応した教育の推進(国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育)
担当部署	学校教育課・管理課
事業の目的及び目標	時代の進展と社会の変化に伴い、国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育などを推進することにより、子どもたちに時代にふさわしい能力を身につけさせる。
H23年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○中学生海外派遣事業「はばたき」【予算額 6,050千円】【決算額 5,991千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24名の中学生(男子11名、女子13名)をオハイオ州デラウエアとニューヨークに派遣。デラウエア市の中学校では、日本文化紹介の時間を設け、積極的に紹介できた。 <p>○外国人英語講師招致事業【予算額14,664千円】【決算額13,489千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内小中高に4名の英語講師を配置し、中高生の英語、小学生の外国語活動のチームティーチングでの指導にあたった。小学校5,6年生に全クラス年間9時間の訪問を行った。 <p>○情報活用能力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校ICT支援員の指導を受け、ICT機器の効果的な活用の研修を行うと共に、情報教育担当者会において情報モラル及び情報活用能力を育成するための参考資料を提供し、各校の指導に役立てるように依頼した。 <p>○理科センター推進事業【予算額1,358千円】【決算額1,105千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科教育に関する教員対象の研修会を4回開催した。児童生徒の理科研究発表会を実施した。(121作品(H22:124作品 H21:127作品 H20:116作品)が発表された) <p>○中村ものづくり事業【予算額2,035千円】【決算額2,035千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもしろ科学ものづくり塾(年8回開催、塾生32名)、ものづくり科学教室(4領域、123名参加)、ものづくり出前授業(延べ22校、516名の受講者)を実施した。 <p>○ロスアンゼルス四世バスケットボール協会交流事業【予算額5,095千円】【決算額4,765千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度にホームステイを受け入れた中学生・家族等(中学生24名、保護者33名、他6名)がロスアンゼルスを訪問し、バスケットボールの試合、ホームステイ等を通じて交流活動を行った。
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校5,6年の外国語活動が必修化となった。ALTによるコミュニケーション中心の英語指導により、児童に外国語を学ぶ楽しさを実感させることができている。また、はばたきの研修会においてもALTと直接英会話の練習を行うことができ、実際のホームステイ先での英会話に活かすことができた。はばたき参加者の満足度調査も100%であり、数値目標を十分達成している。 ・学校ICT支援員の指導を受け、実際の授業に役立つ教材を開発し、ICTを活用した授業に生かすことができた。 ・理科教育に関する研修会には延べ74名(H22:73名、H21:83名)の教員が参加し、新学習指導要領に関連する実技研修を行い、指導力の向上が図られた。星座観察会には、約120組の親子が参加し、天文分野に関する興味づけを図ることができた。 ・ロボットコンテストを実施することで、ものづくり塾の塾生の興味を高めることができた。また、ものづくり科学教室では高校生のボランティアスタッフの参加もあり、小学生が高校生から学び、高校生が小学生に教える活動を通じ、異年齢の交流が図られるとともに、相互にものづくりの楽しさを味わうことができた。
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームステイ先で積極的に家族と会話することができ、有意義な交流ができた。今後、研修会の際に、出入国時のパスポートチェックや税関での申告の仕方、買いものや食事の場面など日常生活で使える英語を学習させ、実際に使えるようにしていく。また、成果検証の一環として旧団員への追跡調査を実施したい。 ・必修化となった小学校外国語活動で、単元の流れや活動のさせ方について研修を深めると共に、ALTが有効に活用されるよう、指導計画を早目にもらい、担当の先生とALTとの間で共通理解を図っていく。また、ALTの小学校への派遣時間を増加させている。 ・学校ICT支援員のサポートがなくなっても、活用できる教材や資料がたくさん蓄積されているので、これらを活用し、これまで以上にICTを効果的に授業に活用できるような研修を深めていく。 ・新しい教科書にある実験・観察について、実際に研修を行うことで、教材に対する理解を更に深めるとともに、実感を伴った理解につなげる指導に活かしていく。 ・「ものづくり」だけでなく、創意工夫に対する興味・関心を更に高めるような事業を展開していく。 ・ロスアンゼルス四世交流事業は、本市の青少年がロスアンゼルスを訪問し、異なる言語や文化を持つ同年代の青少年と直接触れ合うことで、国際的視野を広げ異文化を受け入れる協調性を身につける契機となった。今後の交流の広がりや人材育成につながるものと期待できる。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ						
基本施策	1. 確かな学力の向上						
施策	読書活動の推進						
担当部署	学校教育課、図書館						
事業の目的及び目標		読書活動を充実させるため、本との多様な出会いの工夫をするとともに、読書に親しめる環境の充実を目指す。					
		H20	H21	H22	H23	H26	H31
学校図書室貸出冊数	小	6.6冊	7.0冊	7.4冊	7.3冊	7.5冊	8冊
(1人当たり月平均)	中	0.6冊	0.6冊	0.5冊	0.4冊	1.5冊	2冊
H23年度 主な事業の概要及び実施状況		<p>○各小中学校への図書専門員の配置</p> <p>・37名の図書専門員を全小中学校に週2～3日配置し、学校図書館の環境整備を行った。</p> <p>○図書購入費の各小中学校への配当</p> <p>・小学校16, 252千円、中学校12, 317千円の図書を購入した。</p> <p>○「酒田市子ども読書活動推進計画」の推進に向け各校へ呼びかけを行った。</p> <p>○住民生活に光を注ぐ交付金の活用</p> <p>・小学校5, 994千円、中学校3, 998千円の図書を購入した。</p> <p>・学校図書管理システムを小学校13, 580千円、中学校7, 668千円で構築した。</p>					
事業の効果		<p>・図書管理システムについて、図書専門員からも一緒に研修してもらうことで、蔵書管理の効率化が進み、より子ども達が活用しやすい学校図書館環境の整備がすすんだ。</p> <p>・学校図書館の標準冊数充足率が100%を超えている学校数は小学校15校、中学校5校であり、市全体としては、小学校が101.7%、中学校が98.5%となっている。</p> <p>・図書館リフレッシュ事業による研修会をモデル校で実施し、魅力ある図書館づくりに努めることができた。その結果、教科学習の中で図書館を活用することが増え、読書に親しむ環境が充実してきている。</p> <p>・平成23年度の学校図書館の一人当たり月平均の貸出冊数は、中学校では校舎改築のため、図書貸出期間が短くなり、減少が見られたが、小学校では高い水準を維持している。</p>					
点検結果・自己評価(課題・方向性)		<p>・図書専門員の配置及び図書購入費の各小中学校への配当を継続して行い、標準冊数充足率が100%を超える学校の増加を目指し、学校図書館の環境充実を図る。</p> <p>・読書習慣の定着、読書力の育成のために、読書指導研修会や図書館教育研修会を充実させるとともに、より一層環境整備を進めるための、図書専門員研修会の充実を図る。</p> <p>・学校図書館の機能向上のため構築した、図書管理システムの情報検索や貸し出し機能を有効に活用し、各教科や総合的な学習の時間での調べ学習に役立てる。</p>					

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	1. 確かな学力の向上
施策	特別な教育ニーズへの支援
担当部署	学校教育課、管理課
事業の目的及び目標	ADHD(注意欠陥多動性障がい)・LD(学習障がい)等、個別の支援を必要とする児童生徒や日本語でのコミュニケーションが困難であったり、長期入院のため学習の遅れが心配される児童生徒に対して、個別のニーズに応じた支援を行う。
H23年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○学習適応支援員の配置 【予算額46,376千円+緊急雇用11,246千円】【決算額45,300千円+緊急雇用11,246千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級担任の補助を担当する学習支援員を小学校25校、中学校8校に合計45名配置した。うち、ADHD等特別な支援を必要とする児童生徒への対応に43名、複式学級への対応に2名を配置した。1日6時間、年間200日勤務 <p>○ADHD等支援体制推進事業【予算額4,478千円】【決算額4,411千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校の特別支援コーディネーター(教員が担当)を主な対象とし、児童生徒個々の障がいに応じた具体的手立ての研修を2回実施した。 ・保護者研修会(ペアレントトレーニング)の開催(5回×2グループ)・特別支援巡回相談員による巡回指導の実施(28校 延べ261回)した。(H22は延べ341回) <p>○日本語指導講師等派遣事業【予算額1,388千円】【決算額625千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語でのコミュニケーションが困難な児童を対象に、日本語指導講師を158回派遣した。 ・長期入院児童生徒への学習アドバイザーは、1月～3月に24回派遣した。
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援員が配置のねらいに沿って十分に機能しており、特別な支援を要する児童生徒への対応ができるようになってきた。また、年3回の研修会及び情報交換を通し、児童生徒の理解や接し方について研修を深めることができ、児童生徒の属する学級集団全体の活動もスムーズに行えるよう支援できるようになってきている。 ・すべての学校で支援を必要とする児童生徒の実態把握が進み、個別の指導計画をもとに、特別支援コーディネーターを中心に計画的な支援が行われるようになってきている。また、ケース検討会、ペアレントトレーニング、早期の資料提供等により、就学相談に活かすことができた。発達支援室との連携により、早期対応につながっている。 ・個に応じた日本語指導や長期入院への対応を行うことにより、児童生徒が学校生活に適應することに大いに役立っている。
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習適応支援員の配置要求は多くの学校から出され、平成24年度に向け学校から支援対象としてあげられた児童生徒は495名となっているが、今後も対象児童生徒の状況をもとにより細やかに把握し、配置を計画する。 ・特別支援教育対象幼児の早期発見と早期対応及び幼児期から中学生までを通した支援をより一層推進するためにも、福祉課発達支援室など関係機関との連携を図るとともに、小・中間の接続の在り方、児童生徒の共通理解の在り方について検討していく。 ・特別支援教育に係る整備は着実に進んできてはいるが、県立酒田特別支援学校との連携体制づくりに向けて協議をさらに進めていく。 ・特別支援学級において、ICTやデジタル技術の有効活用について研究を進めていく。 ・日本語指導や長期入院等を必要とする児童・生徒が出ることも予想されるため、今後もより円滑な適應を目指した対応が必要とされる。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ				
基本施策	2. 豊かな心と健やかな体の育成				
施策	体験活動、交流活動の推進(1)				
担当部署	学校教育課				
事業の目的及び目標					
日本国内の異なった地域の文化に触れる機会を与えることで、自分の育った地域のよさの再認識を図るとともに自主性や協調性を養い、生きる力を育む。					
		H22	H23	H26	H31
交流活動参加児童の満足度	飛島いきいき体験スクール	98%	98%	95%以上	95%以上
	少年の翼	100%	100%	100%	100%
H23年度 主な事業の概要及び実施状況					
<p>○飛島いきいき体験スクール支援事業【予算額1,060千円】【決算額1,055千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4小学校、児童221名参加(H22:12校582名、H21:10校615名、H20:12校602名、) ・震災の影響により参加校が減少したが、飛島小・中学校を活動拠点とし、2泊3日の野外観察やイカ釣りなどの体験学習および飛島小学校の児童との交流を実施した。 <p>○自然体験学習推進事業【予算額342千円】【決算額191千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酒田の子どもが、酒田の自然の雄大さに触れることができるような体験プログラムを開発し、平成24年度の試行に備えた。 ・平成24年度の試行に向けての関係者会議及び指導員の研修会への参加をした。 <p>○少年の翼交流事業【予算額3,557千円】【決算額3,285千円】</p> <p>訪問:12月17日(土)～21日(水)小学5年生22名、小学6年生14名、受け入れ校:天底小学校 受け入れ:2月8日(水)～11日(土) 今帰仁村小学6年生36名、交流担当校:松陵小学校</p>					
事業の効果					
<ul style="list-style-type: none"> ・震災による影響で飛島いきいき体験スクールへの参加校は少なかったが、飛島ならではの自然・歴史・文化等について島民と触れ合いながら学ぶことにより郷土を愛する心を育てるとともに、協力する態度や判断し行動する力を育てることができた。 ・平成24年度の試行に向け、鳥海高原家族旅行村を基点とする体験プログラム開発の検討会議や指導員養成に関わる研修会へ参加を行い、鳥海山を活かしたプログラムを計画できた。 ・少年の翼では体験や交流を通じた学習により視野を広げ、日本国内の異なった地域の文化・自然についての理解を深めることができている。平和学習では、日本の歩みと平和維持の重要性について再認識することができた。満足度調査も100%であり、数値目標を十分達成している。 					
点検結果・自己評価(課題・方向性)					
<ul style="list-style-type: none"> ・飛島が持つ本市固有の学習フィールドとしての価値は、実施校すべてが認めるものである。次年度以降も飛島小・中学校と密接に連絡を取りながら、有意義な事業となるよう検討していきたい。また、ボランティアスタッフの確保と備品等の管理について更に検討していく。 ・成果検証の一環として、飛島いきいきスクール実施後にも飛島に行ったか等の調査も実施したい。 ・今年度試行する4校の実施状況も踏まえ、体験プログラムの再検討を図るとともに、本市の自然環境を有効に活用した自然体験学習を他の学校にも広めていきたい。 ・少年の翼では行程として大きな問題はないが、じっくり体験できるような時間設定や交流のあり方について、計画の段階から検討していく。また、「ふれあい少年の翼」の受け入れ体制について今後検討していく。成果検証の一環として旧団員への追跡調査を実施したい。 					

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	2. 豊かな心と健やかな体の育成
施策	体験活動、交流活動の推進(2)
担当部署	社会教育課
事業の目的及び目標	・学校を超えた異年齢の子供たちの協同した体験活動を通して、心豊かな人間性と自立心を育み、仲間づくりとリーダーの育成を図る。
H23年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○「さかたつ子・チャレンジ冒険団」(生涯学習推進講座開催事業) 実施回数/3回、延べ参加人数/40人、対象/小学校4～6年生児童、 募集方法/①カモンくんこどもニュースに掲載し全児童に配布、②広報、ホームページへ掲載、 ③学童保育、交流広場等の関係施設へのチラシ配布依頼</p> <p><内容> ①魚釣り体験と庄内浜文化伝道師による魚のさばき方講習【参加人数 17人／申込み者19人】 ※(雨天のため、魚釣り体験は中止、最上川さみだれ大堰フィッシュギャラリー見学) ねらい:庄内浜で釣れる魚や、地魚の美味しさなど食文化を学ぶ。 ②夏休み宿泊体験(平田地区):田沢川ダム・旧阿部家見学、川遊び・ざっこしめ、野外炊飯、カヌー、テント体験【参加人数 11人／申込み者11人】 ねらい:平田地区の特色や文化を学ぶこと。自然体験や野外炊飯を通して、自然との関わり方や他者との関わり方を学ぶ。 ③ネイチャーゲームと野外炊飯、自然素材のクラフト体験(八幡地区、八森自然公園内)【参加人数 12人／申込み者12人】 ねらい:ネイチャーゲームを通し、自然の美しさや不思議さ、毒草等の恐ろしさを学ぶ。学校の垣根を広く越えた交流を持つ。自然にある素材を利用し、自由な発想の創造・芸術活動を行う。</p> <p>(参考)H22年実績 3回 参加人数56人</p>
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・普段できない体験を通して五感を磨き、生きる力の醸成が図られた。 ・参加者アンケートによる満足度は、1回目82%、2回目83%、3回目100%と好評であった。 ・参加者の交流が促進された。 ・様々な体験を通じて、酒田の自然と歴史、文化への理解を深めることができた。
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<ul style="list-style-type: none"> ・年度毎に、参加人数にばらつきがある。 ・より魅力のある、より効果のある事業の企画を行う。 ・開催時期、事業内容、対象とする学年について見直しを図っていく。 ・安全面の徹底を図るため、安全対策マニュアルを実践する。

基本的方向	1 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ						
基本施策	2. 豊かな心と健やかな体の育成						
施策	相談支援体制の充実						
担当部署	学校教育課						
事業の目的及び目標							
いじめや不登校等としてあらわれてくる児童生徒の心の問題について、学校内外で相談できる環境整備を行い、児童生徒の心身の健全育成を図る。							
		H21	H22	H23	H26	H31	
不登校児童生徒の割合	小	0.15%	0.15%	0.17%	0.1%未満	0.1%未満	
	中	1.70%	1.53%	1.96%	1.6%未満	1.3%未満	
H23年度 主な事業の概要及び実施状況							
<p>○教育相談充実事業【予算額7,616千円】【決算額7,127千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談室での来室・電話相談の実施(平成23年度 273件(新規86件)平成22年度 252件(新規74件)、平成21年度 249件(新規88件)、平成20年度 300件(新規95件))、不登校児童生徒の保護者研修会を3回実施した。 <p>○教育相談研修講座開催事業【予算額168千円】【決算額140千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談研修講座を4回実施、各校教育相談担当者の資質向上のための研修を4回実施した。 <p>○適応指導教室(ふれあい教室)維持事業【予算額965千円】【決算額808千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童生徒の集団適応能力を育成し、心に寄り添いながら学校への復帰を目指す。(小学生1名、中学生11名通級) <p>○スクールカウンセラー等活用事業【予算額9,304千円】【決算額9,080千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の事業と合わせながら、スクールカウンセラー(SC)6名を各中学校と中央高校に、教育相談員9名を各中学校に、家庭訪問相談員を要請に応じて派遣した。 							
事業の効果							
<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談室のPRにより、相談が速やかに行われるとともに、教育相談室から学校へ保護者の了解のもと、情報提供されるなど、双方向で連携が図られた。その結果、早期に問題に適切に対応することで深刻化を未然に防いだケースが増えた。 ・発達障害に関する児童生徒の理解に関する研修会や、通常学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒への配慮等についての研修会を開催することにより、教職員の日々の指導に活かしてもらうことができた。 ・SCや家庭訪問相談員、教育相談室、学校との連携で、ふれあい教室に新たに通級ができるようになった生徒もいる。また、ふれあい教室で、多くの人との関わりを体験することで自信を取り戻せた事例が多くあり、不定期ではあるもの、5名の児童・生徒が学校に登校できるようになった。 ・SC、各相談員の校内教育相談体制への位置づけが進み、その専門性を効果的に活用できるようになってきている。人間関係づくりの活動を仕組むことにより、心が和む学級づくりがなされ、不登校の未然防止につながっている例もある。 							
点検結果・自己評価(課題・方向性)							
<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談室への相談が増える時期とその内容について更に共通理解を図ると共に、学校においての仲間づくりの活動など、不登校の未然防止につながる活動も推進していきたい。また、教育相談室の活用を更に図るために、ポスターやリーフレットの配布等をしていく。 ・中学生の不登校が前年50名から64名へと増加したが、不登校のきっかけとなった主なものとして、本人に関わる問題、友達関係をめぐる問題が多いことから人間関係づくりを大切に活動を進めていきたい。また、迅速な初期対応と児童生徒の気持ちを認め自尊感情を大切にしながら指導するなどの支援を進めていく必要がある。 ・発達障害に関わる内容や生徒指導に関わる内容など、領域別に相談講座を企画するとともに、先生方の経験別に研修会を企画することで、より専門的な研修につながるようにしていく。 ・引きこもり傾向にある児童生徒や保護者は関係機関とのかかわりが途絶えてしまう可能性があるため、学校、子育て支援課、家庭訪問相談員と連携を取り、それぞれのケースに応じた支援を検討していく。 							

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	2. 豊かな心と健やかな体の育成
施策	食育の推進
担当部署	管理課、学校教育課

事業の目的及び目標

食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身につけさせる活動を進めるとともに、地元生産者等のネットワークをさらに広げ自然の恵みや生産者へ感謝する心を育む。

項目	当初数値 (20年度)	22年度	23年度	5年後 (26年度)	10年後 (31年度)
地元産野菜利用割合	小 46.1%	小 38.0%	小 36.5%	小 50%	小 50%以上
	中 31.3%	中 26.6%	中 31.2%	中 40%	中 50%以上

(注) 地元産の定義＝21年度までは県内産、22年度からは庄内産を地元産と定義変更

H23年度 主な事業の概要及び実施状況

- 平成21年度から週5日の米飯学校給食を継続して実施した。
- 代々受け継がれてきた郷土料理を伝えるため「酒田産給食」を引き続き実施した。(学期毎1回)
- 地元産野菜を積極的に学校給食に取り入れた。
- 毎月「給食だより」を発行し、食材の情報提供に努めた。
- 食指導について、栄養教諭と学校栄養士の研修会を行うとともに、季節ごとの指導プログラムを策定することで児童生徒の食と健康に関する理解促進に努めた。
- 栄養教諭による巡回指導を行った。(指導回数117回)
- 家庭における実践が食育推進に欠かせないことから、栄養教諭が機会を見つけて保護者に対する講話や資料の提供を行い、また、食育だよりを発行して食の大切さの啓発に努めた。

事業の効果

- ・週5回の米飯学校給食を実施することにより、郷土料理や行事料理を児童生徒に伝え、また、地元産食材の利用拡大に寄与した。
- ・「給食だより」を通して、家庭での望ましい生活習慣、食と健康に対する理解を広めることができた。
- ・栄養教諭、学校栄養士の巡回指導により、食と健康について児童生徒の理解を深めることができた。

点検結果・自己評価(課題・方向性)

- ・栄養教諭が食に係る指導を行うことで、児童生徒の食に対する関心を高めることができた。
- ・地元産の食材を給食に取り入れることで、地域の食文化を学び、日本型食生活の良さを伝えることができた。
- ・給食で使用できる地元産食材が品目や数量の面で限定されていることから、生産者との意見交換が必要である。
- ・学校保健委員会や母親委員会、PTA研修会等において栄養教諭等の講話の機会を設けたり、家庭へ向けて食育に関する資料を提供したりして、家庭においても食育が実践されるよう啓発を図っていく。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	3. 家庭、学校、地域との連携
施策	家庭教育の支援
担当部署	社会教育課

事業の目的及び目標

- ・家庭は子どもの情操や人格形成の基礎を培う重要な教育の場であることから、各関係機関と連携し、保護者の学びを支援する。
- ・保護者同士の仲間づくりを図る。

H23年度 主な事業の概要及び実施状況

○生涯学習推進講座開催事業のうち家庭教育講座が対象【予算額は生涯学習推進講座開催事業に記載】
4講座、66回実施し、延べ参加者数は3,755人となった。

区分	事業名及び対象	講座の内容	実施回数	人数
家庭教育	さんさん学級 (未就園児と保護者)	音楽・料理。いも掘り等体験活動	6	138
	すくすく出前講座(保育園、幼稚園児と保護者)	親子体験:(リトミック・焼物・積木・ダンス)等 幼児体験:ワークショップ(集団ルール・積木・アート)等	31	1,717
	地域家庭教育講座 (小中学校保護者)	講演・実技(読み聞かせ・生活習慣・思春期の関わり方(ワークショップ)・入学前の心構え・保護者同士の仲間作り・親子料理教室)等	26	1,776
	家庭教育セミナー (保護者)	子育てに関するコーチング	3	124
計			66	3,755

参考 H22実績 4講座、実施回数67回 参加者4,105人

事業の効果

○さんさん学級

未就園児が普段の接する1対1の関係から、同年代の他の子どもと関わる機会を得て、子どもと保護者同士の関係を深めることができた。

○すくすく出前講座

親子のコミュニケーションをより深めることができた。また各園では、外部講師による指導により、子どもたちの様子を客観的にみることができ、今後の指導につながるいい機会となった。

○地域家庭教育講座

各小中学校とPTAが家庭教育の課題を考え、講座を企画実施することで、家庭での子どもとの関係を見直し、理解を深めるきっかけを作ることができた。

参加者の感想/「親子での触れ合いを持てた」「親子の会話の大切さを学ぶことができた」等

○家庭教育セミナー

新入学児童の保護者を対象に子どもへの接し方など、より実践的な学習機会を提供し、子どもへの理解を深めるとともに、保護者同士の仲間作りのきっかけともなった。

参加者の感想/「子どもの自己肯定感を高めてあげることの大切さがわかった」「入学前に保護者同士の交流が持てて良かった」等

点検結果・自己評価(課題・方向性)

・就学前の保護者を対象とした家庭教育が求められている。また、広く家庭教育の大切さを広げるため、企業への働き掛けが求められている。

・就学前の家庭教育については、新たにモデル園を指定し、今後の家庭教育講座のあり方を検証していく。

・地域家庭教育講座については、家庭教育に関する課題解決に向け小中学校、PTAと協議をしながら講座内容の充実に努めていく。

・企業等とも連携した講座を企画するなど、家庭教育に関する学習機会の充実に努める。

・これから親になる方も対象とするなど、対象の拡大と内容の充実に努めていく。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	3. 家庭、学校、地域との連携
施策	地域教育力の向上・地域活動の活性化
担当部署	学校教育課、社会教育課、管理課
事業の目的及び目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域全体で「地域の子」、「社会の子」として育むため、子どもと地域の交流ができる機会の提供を図る。 ・地域の特色を生かして行う青少年の体験活動や健全育成に関わる事業を通して、地域全体で取り組む体制づくりを推進し地域教育力の向上を図る。 ・事業の企画力と地域の課題を見出し、その解決に向けたノウハウを身につけた人材を育成を図る。
H23年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○地域人材交流講座(生涯学習推進講座開催事業) 【予算額はP.25の生涯学習推進講座開催事業に記載】 地域の先生として、小、中学生に伝統文化や農作業、ものづくりなどを指導していただき、地域に根ざした人材活用と異世代交流を進めた。 実施回数と人数:小学校280回、5,020人、中学校60回、1,898人、合計340回、6,918人</p> <p>○地域の教育力向上事業【予算額7,500千円】【決算額6,995千円】 親子での共同作業や三世代交流事業、地域文化の学習と伝承、地域の自然理解などの事業を実施した。 実施コミュニティ振興会は25団体、延べ事業数125事業、延べ参加人数12,383人。(詳細は資料P.31参照)</p>
事業の効果	<p>○地域人材交流講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域・家庭・学校が手を結び合い、地域の教育力としての地域人材の活用が図られた。 ・地域の先輩から生きた生活体験や地域の歴史・ルールなどを学び、自立に向けた成長が見られた。 ・地域の指導の方々には教える喜びや新たな生きがいを見出している。 <p>○地域の教育力向上事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流(かかわり)や体験を通して、地域理解が深まるとともに、生きる力の醸成が図られた。 ・事業が3年目を迎え、指導者の育成が図られた。 ・それぞれの地域に伝わる伝統芸能・文化を継続して体験することで後継者の育成が図られている。
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校統廃合の実施等により、一つの小学校区に複数のコミュニティ振興会が存在する地域があり、地域間で連携した事業展開を考える必要がある。 ・地域人材交流講座は、地域の人材を活用した異世代交流を図る事業として引き続き実施していく。 ・地域の教育力向上事業では、地域間の垣根を越えて「地域の子」としての意識を共有することができるよう、事業の共同開催などの指導・助言等を行っていく。 ・地域教育力向上事業に関するスキルアップ講座を引き続き実施し、地域リーダーの育成を図る。 ・社会教育指導員や職員が定期的にコミュニティ振興会を訪問して情報交換を行うなど、相談体制の充実・強化を図る。 ・地域の課題を共有化するとともに、その解決を図るための企画力・地域の教育力向上を図る。 ・公民館事業を継承した事業から、地域の実情や課題に対応し、子どもとの「ふれあい」を軸にした新たな事業の企画ができるよう相談指導を行っていく。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ				
基本施策	4. 教育環境の整備				
施策	学校施設の整備				
担当部署	管理課				
事業の目的及び目標					
<p>・旧耐震基準により設計された施設の耐震性能を高めるため、計画的に耐震診断を行い、必要に応じ改修・改築を行うことにより、学校施設の耐震化を推進し、安全安心な施設整備を図る。</p> <p>・学校の良い教育環境整備を図る。</p>					
項目	算出方法	22年度	23年度(現状)	27年度	32年度
学校施設の耐震化の割合	耐震化済みの学校施設割合(校舎、体育館)	小60.3%	小65.4%	小100%	小100%
		中68.1%	中79.4%	中100%	中100%
<p>23年度は琢成小学校校舎・屋内運動場、鳥海小学校校舎を耐震化</p> <p>・酒田市耐震化計画に基づき、平成27年度を目標に特別の事情があるもの以外の耐震化を図る。</p>					
H23度 主な事業の概要及び実施状況					
○耐震化の進捗率(H24. 3. 31現在):小学校が約65.48%、中学校が約79.41%					
○耐震診断事業 小、中学校ともに平成22年度で完了					
旧耐震基準により設計された施設の耐震性能を確認するため、計画的に耐震診断を行った。					
年度	耐震診断実施校数	備考			
H19年度以前	4校	若浜小校舎、松原小校舎、第二中校舎、第一中校舎			
H20年度	3校	広野小校舎・屋内運動場、宮野浦小校舎・屋内運動場、第二中校舎・屋内運動場			
H20・21年度	3校	亀城小校舎、松原小屋内運動場、琢成小校舎・屋内運動場			
H21年度	4校	松山小校舎・屋内運動場、松陵小校舎、飛鳥中校舎・屋内運動場、鳥海中校舎			
H22年度	3校	泉小校舎・屋内運動場、富士見小校舎・屋内運動場、松山中校舎			
〔耐震関係事業〕					
○松原小学校改築事業 【予算額 711,946千円】【決算額 685,664千円】【繰越額 10,000千円】					
【前年度繰越額 369,140千円】【決算額 302,944千円】					
校舎約4,839㎡の改築工事(H22、23継続)及び屋内運動場約1,273㎡の改築工事を行った。					
外構工事は、H24へ10,000千円繰越し。					
○琢成小学校改修事業 【予算額 243,146千円】【決算額 0千円】【繰越額 243,146千円】					
【前年度繰越額 179,763千円】【決算額 161,794千円】					
校舎、屋内運動場の改修工事を行った。					
校舎改修2期工事はH24へ、243,146千円繰越し。					
○鳥海小学校新校舎改修事業 【予算額 69,339千円】【決算額 51,141千円】【繰越額 17,738千円】					
【前年度繰越額 265,821千円】【決算額 265,124千円】					
旧鳥海中学校を小学校として活用するため、校舎改修等設計、校舎等改修、外構工事を行った。					
グラウンド改修工事はH24へ、17,738千円繰越し。					
○松陵小学校改修事業 【予算額 209,853千円】【決算額 6,142千円】【繰越額 203,710千円】					
校舎の改修工事の設計を行った。					
校舎改修1期工事はH24へ、203,710千円繰越し。					

- 第二中学校改築事業【予算額 740,987千円】【決算額 724,734千円】
 【前年度繰越額 417,189千円】【決算額 399,279千円】
 校舎約5,270㎡の改築工事(H22、23継続)及び屋内運動場約1,739㎡の改築工事を行った。
- 飛鳥中学校改修事業【予算額 110,320千円】【決算額 0千円】【繰越額 110,320千円】
 校舎改修1期工事はH24へ、110,320千円繰越し。

[その他の改修事業等]

- 亀城小学校改築事業【予算額 76,617千円】【決算額 70,669千円】【繰越額 5,628千円】
 校舎改築に伴う仮校舎改修工事(H23、24継続)、既存校舎解体工事(H23、24継続)、校舎改築の設計を行った。
- 宮野浦小学校改修事業【前年繰越額 179,315千円】【決算額 143,404千円】
 校舎改修2期工事を行った。
- 松陵小学校駐車場整備事業【前年度繰越額 9,444千円】【決算額 9,443千円】
 既存駐車場の整備工事を行った。
- 統合小学校改修事業【予算額 3,601千円】【決算額 3,583千円】
 統合により閉校した平田中学校を統合小学校の校舎として改修工事をする設計を行った。
- 第一中学校校舎改修事業【予算額 15,990千円】【決算額 15,989千円】
 【前年度繰越額 541千円】【決算額 540千円】
 第一中学校のテニスコート整備、備品購入を行った。
- 鳥海八幡中学校テニスコート整備事業【予算額 9,482千円】【決算額 9,481千円】
 鳥海八幡中学校のテニスコート整備を行った。
- 施設整備事業(小学校)【前年度繰越額 23,683千円】【決算額 23,682千円】
 主な改修内容:プール塗装(琢成小、若浜小、北平田小)、校舎屋根防水改修(田沢小特別教室棟)防球ネット設置(松山小)、FF暖房機改修(泉小、新堀小)、防火シャッター改修(十坂小)を行った。
- 施設整備事業(中学校)【前年度繰越額 13,018千円】【決算額 12,968千円】
 主な改修内容:防火シャッター改修(第四中、平田中)、屋根保護塗装(第三中屋内運動場)FF暖房機改修(飛鳥中)を行った。
- 非構造部材の点検及び耐震化を行った。

事業の効果

- ・特別の事情のある学校以外の耐震診断は完了した。
- ・改修・改築を計画的に進めたことにより、学校施設の耐震化を推進することができた。
- ・施設の改修を行うことにより、学校施設の良い環境整備を図ることができた。

点検結果・自己評価(課題・方向性)

- ・児童、生徒等の安全確保と災害時の避難場所としての機能確保のため、引き続き学校施設の耐震化を積極的に推進する必要がある。
- ・学校の良好な環境を確保するため、年次的にプール塗装、防火シャッター改修、FFストーブの改修、その他の施設整備事業を計画的に進める必要がある。
- ・非構造部材の耐震化を学校のチェックリストも参考にしながら計画的に進める。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	4. 教育環境の整備
施策	学校規模の適正化の推進
担当部署	管理課
事業の目的及び目標	
<p>少子化による児童生徒の減少と学校の小規模化が進む中、学校教育に寄せられる時代の要請に応えるため、学区の改編により学校規模の適正化を図り、教育環境を整えていく。</p> <p>酒田市立小・中学校の学校規模に関する基本方針</p> <p>1. 学校規模に関する基本的な考え</p> <p>(1) 小学校、中学校の標準とする学校規模は、12～18学級とする。</p> <p>(2) 複式学級の解消に努める。</p> <p>(3) 過大規模校は(31学級以上)は設置しない。</p> <p>2. 当面存続する規模</p> <p>当面存続する学校規模・学級規模の指針として、次のように設定する。</p> <p>(1) 小学校 ① 学校規模 児童数は100人程度以上が確保できる規模 ② 学級規模 1学級15人程度以上が確保できる規模</p> <p>(2) 中学校 ① 学校規模 生徒数は270人程度以上が確保できる規模 ② 学級規模 1学年3学級以上が確保できる規模</p> <p>3. 配慮事項</p> <p>学区の改編を進める際は、地域住民と十分な時間をかけて話し合い、理解と合意のもとに進める。適正配置に関する方針等に基づき、今後統合を進める学校。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二中学校・平田中学校(平成24年度実施済) ・東平田小学校・中平田小学校・北平田小学校(平成25年度) ・亀城小学校・港南小学校(平成26年度) ・松山中学校・飛鳥中学校(平成26年度) 	
H23年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○学区改編推進事業【予算額 1,354千円】【決算額 955千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区改編審議会を開催(4回)。 ・第二中学校・平田中学校、東・中・北平田小学校、亀城小学校・港南小学校の統合準備委員会及び各部会を開催して、統合に向けて課題の検討を行った。 ・「学区改編だより」や「教育委員会からのお知らせ」を発行し、地域の方々に統合の計画や統合準備の進行状況の周知を図った。 ・平成23年7月、学区改編審議会から「松山中学校・飛鳥中学校の統合は妥当」との答申を受けて、「松山中・飛鳥中の統合方針等説明懇談会」を開催し、中学校の適正規模について、両地域の方々と課題等の共有を図った。 <p>○学校統合事業【予算額 7,916千円】【決算額 5,451千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新生第一中学校の開校式のための校歌制作者旅費、校歌額製作費、看板代などを支出した。 ・第二中学校と平田中学校の統合中学校の校歌・校章デザイン作成委託、備品等の移転、閉校式典、閉校記念事業補助金、部活ユニホーム補助金等を支出した。 	
事業の効果	
<ul style="list-style-type: none"> ・統合準備委員会を主体に課題の検討・整理を進め、平成24年4月に第二中学校と平田中学校の統合による新生第二中学校を開校した。 ・適正規模の教育環境が整ったことで、教職員の指導体制や生徒相互が学びあう環境が充実し、学校運営、部活動・生徒会等の学校活動の活性化が図られている。 ・その他地域でも統合準備委員会での具体的な協議や地域での話し合いにより学校の適正規模の必要についての理解が深まった。 	
点検結果・自己評価(課題・方向性)	
<ul style="list-style-type: none"> ・適正規模に課題がある小・中学校について、地域住民と十分話し合い、理解と合意のもとに学校の適正規模適正配置に努めていく。 	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	4. 教育環境の整備
施策	通学の安全確保
担当部署	学校教育課
事業の目的及び目標	
<p>児童生徒の通学の安全を確保するため、地域学校安全指導員の活動など学校、地域の連携を深めるとともに、遠距離通学対策の充実を図る。3. 11の大震災を受け、避難場所・避難経路及び避難方法等、防災対策の見直しを図る。</p>	
H23年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○子どもの安全安心通学対策事業【予算額2,173千円】【決算額2,040千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校安全指導員5名による各学校の見守り隊や酒田警察署との連絡調整を行った。 ・青色回転灯を装備した車両による防犯パトロールについて、市教委として見守り隊協力者や学校教職員26名に警察より証明を受け、回転灯の購入・貸与、パトロール車表示用ステッカーの購入・貸与を行った。 ・メール配信希望の保護者や地域の方々に不審者情報の一斉配信ができた。一斉メール配信システムのPRを小中学校、幼稚園の保護者等に行った。 ・不審者情報等の一斉メール配信システムの運用を行った。 (登録件数5,578件(H24.3.29時点)、H23配信数15件) <p>○防災対策(災害時の安全確保)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3. 11の大震災を受け、津波の際の避難場所や避難経路の見直し等、各校に防災計画の見直しを図るようお願いした。7月には「防災対策研修会」、2月には群馬大学:片田敏孝氏を招聘しての「防災教育講演会」を実施し、教職員の防災意識を高めるとともに、非常災害時の対応の仕方について研修を深めた。また、登下校時の避難場所や避難方法等について見直しと確認を行った。 <p>○遠距離通学対策【予算額34,794千円】【決算額33,740千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通年は、小学校概ね4km、中が概ね6km以上を対象として、スクールバス運行またはバス定期券の交付により実施している。 ・冬期間は、小中学校とも概ね3km以上を対象とし、バス対応は約60日、定期券対応は3ヶ月分の経費の負担を行った。 	
事業の効果	
<ul style="list-style-type: none"> ・各学校の見守り隊や酒田警察署との連絡調整を図りながら、各学校、機関相互の情報交換や酒田警察署と連携した活動を行うことができた。 ・青色回転灯を装着してのパトロールが定着することで安全安心な通学に寄与している。 ・一斉退校や学級閉鎖に伴う下校時間の繰り上げ等の情報を、個別に安全安心メールで配信したことにより、学校から保護者への緊急連絡の手助けになった。また、非常災害時の児童の引き渡し訓練などにもメール配信を利用し、実際の訓練を行った学校もある。 ・「防災対策研修会」及び「防災教育講演会」を開催すると共に「防災計画に盛り込むべき主要内容」を学校に示したことで、災害発生時の場面に応じた避難訓練や地域と共に防災訓練等を計画する学校が増えてきた。 ・遠距離通学の安全を確保するとともに、通学費用に係る保護者の負担軽減を図ることができた。また、学校統合に当たっては、基準に照らしながら対応し、円滑なスタートに努めた。 	
点検結果・自己評価(課題・方向性)	
<ul style="list-style-type: none"> ・見守り隊連絡協議会やリーダー研修会を通して、相互の理解を更に図るとともに、パトロール実施者の増員を図る。また、各学区の実態に合った安全マップの見直し・更新を学校・PTAに働きかけていく。 ・通学路の安全点検を、学校、学校教育課、まちづくり推進課、土木課、警察などと連携して行い、改善すべき箇所について対応していくことで、児童生徒の通学路の安全確保に努めていく。 ・年度当初にメール配信システムへの登録をわかりやすくするための広報活動を実施していく。併せて、学校からの一斉下校等の情報も迅速に配信できるようにしていく。 ・地域住民と連携を図りながらの防災訓練を実際に行うようにしていく。 	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ																									
基本施策	4. 教育環境の整備																									
施策	学校ICT環境の整備充実																									
担当部署	学校教育課																									
事業の目的及び目標																										
時代に対応したICT環境としていくために、教育用コンピュータ及び校務用コンピュータ等のICT機器の保守及び更新を定期的に進めると共に、適正な運用を図る。																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H26</th> <th>H31</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">授業でICT機器を使用 できる教員の割合</td> <td>小</td> <td>52%</td> <td>65%</td> <td>69%</td> <td>75%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>45%</td> <td>60%</td> <td>60%</td> <td>70%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>									H21	H22	H23	H26	H31	授業でICT機器を使用 できる教員の割合	小	52%	65%	69%	75%	100%	中	45%	60%	60%	70%	100%
		H21	H22	H23	H26	H31																				
授業でICT機器を使用 できる教員の割合	小	52%	65%	69%	75%	100%																				
	中	45%	60%	60%	70%	100%																				
H23年度 主な事業の概要及び実施状況																										
<p>○デジタルキャンパスネットワーク【予算額60,152千円】【決算額59,348千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校736台、中学校355台の教育用コンピュータをリースで整備しており、H23年度は175台更新した。 ・校務用コンピュータのサポート、サーバの保守を実施した。 <p>○学校ICT活用支援員の配置 【予算額19,821千円】【決算額19,821千円】商工港湾課ふるさと雇用再生特別基金事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6名のICT支援員を配置し、飛島小学校を除く38校へ教職員のICT機器活用に係る各種業務の支援を行った。 <p>○情報教育担当者会、市教研視聴覚部会で、ICTを活用した授業についての研修を実施した。</p>																										
事業の効果																										
<ul style="list-style-type: none"> ・PC及びICT機器を授業で活用することで、情報活用や情報モラルについて学ばせ、児童生徒の情報化社会を生きる力を育てることができた。 ・各教科の授業において、PC及びICT機器を効果的に活用することで、児童生徒の学習意欲が高まり、より深い内容の理解につながっている。 ・授業でICTを活用できる教員の割合は、平成23年度末で小学校69%、中学校60%であった。 ・学校ICT支援員の指導のもと、授業で活用できるソフトの開発や資料の蓄積が進んだ。その結果、算数や国語、外国語活動の時間にICTを活用した授業をする先生方が増えている。 																										
点検結果・自己評価(課題・方向性)																										
<ul style="list-style-type: none"> ・教育用コンピュータは今後とも児童生徒の情報活用能力の育成のために、定期的に更新をしながらリースによる整備を継続していく必要がある。 ・校務用コンピュータの安定運用のための保守を継続していく必要がある。 ・ICT機器を活用した授業を展開できる教員の割合をさらに高めるため、授業でのICT機器利用の支援や、デジタルテレビや電子黒板等のICT機器の活用方法等の研修の充実を図る。また、「学びの扉」に代わるグループウェアの導入により、先生方が更に校務用PCを有効に使える環境を整えていく。 ・特別支援学級において、ICTやデジタル技術を活用した教材・教具の研究を進めていく。 																										

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	4. 教育環境の整備
施策	教育の機会均等
担当部署	管理課
事業の目的及び目標	<p>大学等の修学や私立高等学校で教育を受ける際の経済的負担を軽減するため、市独自の制度による支援を行い、教育を受ける機会を確保する。</p>
H23年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○大学等修学支援事業【予算額 3,668千円】【決算額 2,866千円】 本市出身の学生に対する大学等修学に係る経済的支援を図るため、教育ローンの利子補給を行った。 新規交付 28件 1,010,311円 継続交付 54件 1,856,071円 計 82件 2,866,382円</p> <p>○私立高等学校生徒授業料軽減事業【予算額 3,984千円】【決算額 3,984千円】 私立高等学校に在籍している生徒の授業料等に係る負担軽減を図るため、補助金を交付した。 生活保護被保護世帯 4件 240,000円 市民税非課税世帯 62件 2,232,000円 市民税均等割課税世帯 42件 1,512,000円 計 108件 3,984,000円</p> <p>○京野基金大学修学奨励事業【予算額 900千円】【決算額 900千円】 経済的に困窮している世帯で、4年制の国立大学法人立、公立大学等に進学する本市出身の学生の保護者に、大学入学時に給付型奨学金として30万円を支給した。 交付件数 3名</p>
事業の効果	<p>○大学等修学支援事業 ・大学、短大、専門学校等への修学の動機づけとなるとともに、保護者の経済的負担の軽減を行った。</p> <p>○私立高等学校生徒授業料軽減事業 ・私立高等学校に在籍している生徒の保護者の経済的負担の軽減を行った。</p> <p>○京野基金大学修学奨励事業 ・経済的に困窮している世帯の、優秀な生徒の修学支援を行った。</p>
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<p>・教育を受ける機会の均等を図るためには、保護者の経済的負担を軽減することは重要である。</p> <p>・大学等修学支援事業については、大学修学に係る経済的支援を図るため、今後も継続していく必要がある。新規申請については減少したことから、PRについてさらに力を入れていく必要がある。</p> <p>・私立高等学校生徒授業料軽減事業については、国の施策による私立高校生への支援金の支給及び県の施策による私立高校生への補助金の支給が行われたが、無償化された公立高校生と私立高校生では、まだ保護者の経済的負担に差があることから、保護者の負担軽減を図るため継続する必要がある。</p> <p>・京野基金大学修学奨励事業を活用し、経済的に困窮している世帯の優秀な生徒の修学を支援していく。</p>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	5. 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進
施策	教職員研修等の充実
担当部署	学校教育課
事業の目的及び目標	信頼される学校づくりを推進するため、教員の指導力向上や資質向上のための研修活動、教員評価を実施する。
H23年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○初任者研修、教職10年経験者研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の初任者研修として「学級づくり研修」と「市内教育施設見学」の2回実施した。(該当者11名) ・市の教職10年経験者研修は5月における全体研修の実施と「知見を広める体験研修」として7・8月を中心に企業や福祉施設等における体験的研修を実施した。(該当者5名) <p>○各種研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科指導力向上のための研修 理科センター事業として研修会を4回開催(延べ約74名の参加) 市教育研究所の各部会で教科指導等の研修会を合計101回開催 ・生徒理解のための研修 教育相談研修講座を4回開催(延べ534名の参加) 教育相談担当者を対象としたスーパーバイザー研修会を4回開催 ・特別支援教育のための研修 特別支援コーディネーター資質向上研修を2回開催(延べ約108名の参加) <p>○教員評価の試行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての教員が自己目標を設定し、個人や組織としての工夫を図り資質の向上に努めた。 ・管理職においては、学校の信頼を確かなものにするため、綱紀粛正に向けてボトムアップの取り組みを行った。
事業の効果	<p>・初任者研修では、児童生徒の理解や学級経営に係る研修を深めると共に、市内の教育相談施設や幼稚園等を訪問することにより、連携の大切さや学校教育の役割を再確認することができた。教職10年経験者研修では、民間企業や福祉施設における体験的研修を通して、教職以外の仕事の厳しさや難しさ、働く喜びや社会貢献の大切さを実感することができた。</p> <p>・教科指導力向上のため、国語、算数・数学、読書活動については、文部科学省より教科調査官を招聘し、新学習指導要領の趣旨を踏まえた教科指導の在り方について研修を深めることができた。</p> <p>・理科の実技研修会でも、授業に生きる研修という視点から、実技研修を充実させ、児童生徒が実感を伴った理解が図られるような指導方法の工夫を研修することができている。</p> <p>・教員評価を実施したことにより、自己目標設定と達成に向けての取り組みの中で、各教員の意欲向上と学校経営への参画意識が高まるとともに、組織の活性化が図られた。</p>
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、初任者研修で、酒田市内の自然や文化等の良さにも触れる研修等も行うことで、教員としての資質を高めると共に、いろいろな立場からの見方や考え方ができるよう視野を広めていきたい。 ・小中学校のつながりを意識した「小中スクラム事業」を展開し、国語、算数・数学、外国語の授業改善に向けた実践的な研修を、推進校を指定して行う。 ・学校における担任力(学習指導力・生徒指導力・特別支援教育力)向上のための研修を一層充実させるとともに、教員の資質向上に向けて、個々のキャリアに応じた各種研修活動や教員評価を充実させる。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	5. 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進
施策	学校運営の公開と学校評価システムの推進
担当部署	学校教育課
事業の目的及び目標	
<p>信頼され開かれた学校づくりを進めるため、保護者や地域住民の学校運営への参画や教育活動等の評価システムの機能を充実させる。</p>	
H23年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○学校評議員会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営に関して第三者の意見を活かしていくために、全小中学校と酒田中央高校で学校評議員の委嘱を行った。 ・授業参観や給食の試食を兼ねた学校評議員会を開催した学校も多い。また、協議に限らず児童生徒の実際の姿を見てもらうために学校評議員を学校行事に案内する学校も多い。 ・特に統合に係る学校では、よりよい統合となるよう意見をいただいた。 <p>○学校評価の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営に関する児童生徒、保護者、教職員のアンケートを実施、分析、改善するとともに、学校評議員に提示して学校関係者評価を行い、学校経営の改善につなげた。 	
事業の効果	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員の方々から普段の授業を参観してもらったり、児童生徒といっしょに給食を取ったりするなど、より日常の姿を見てもらい意見をいただくよう工夫して、開かれた学校づくりが進められた。 ・学校評議員会の開催により、地域での様子をより把握でき、改善が図られ信頼関係が深まった。また、地域の方々が学校をサポートする体制づくりが強まっている。ホームページを公開する学校が増え、学校の運営方針や児童生徒の活躍の様子をインターネット上で公開している。 ・児童生徒、保護者における自由記述等のアンケート結果をもとにした自己評価や学校関係者評価により、具体的な学校経営の改善が進んだ。また家庭や地域との協力のポイントが明らかになり、次年度に活かされた。 ・特に統合に係る学校では、地域の思いや願いを受けながらより良い方向性を探り、学校運営に反映することができた。 	
点検結果・自己評価(課題・方向性)	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員については、学校課題に対する幅広い意見を集約する視点から、年齢や男女のバランス等人選のあり方を検討してもらうようお願いしていく。 ・学校評議員会の話し合いをより有意義なものにするためにも、各校でのよりよい実践を他校にも広げていく。 ・年度初めに今年度の重点や学校課題(評価の視点)を地域や保護者に示し、日常的にも児童生徒のどのような姿を目指しているのか情報提供を進め、より学校経営の改善に生きる評価システムを推進していく。 	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ								
基本施策	5. 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進								
施策	特色ある学校づくりの推進								
担当部署	学校教育課								
事業の目的及び目標	地域社会や児童生徒の実態を踏まえ、各学校の経営の柱として、特色ある教育活動を展開し、活力ある学校経営を推進する。								
H23年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○特色ある学校づくり支援事業【予算額5,700千円】【決算額5,700千円】</p> <p>各小中学校において取り組んでいる特色ある学校づくりに係わる教育活動等に対し、1校当たり150千円を交付した。</p> <table border="0"> <tr> <td>地域連携のための活動を主なものとしている学校</td> <td>18校</td> </tr> <tr> <td>児童生徒の感性を育てる活動を主なものとしている学校</td> <td>15校</td> </tr> <tr> <td>学校美化、地域環境保全活動を主なものとしている学校</td> <td>9校</td> </tr> <tr> <td>児童会・生徒会活動への支援を主なものとしている学校</td> <td>7校</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">※学校数は延べ数</p>	地域連携のための活動を主なものとしている学校	18校	児童生徒の感性を育てる活動を主なものとしている学校	15校	学校美化、地域環境保全活動を主なものとしている学校	9校	児童会・生徒会活動への支援を主なものとしている学校	7校
地域連携のための活動を主なものとしている学校	18校								
児童生徒の感性を育てる活動を主なものとしている学校	15校								
学校美化、地域環境保全活動を主なものとしている学校	9校								
児童会・生徒会活動への支援を主なものとしている学校	7校								
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が新たに解決すべき課題を明確にし、めざす学校像・児童生徒像の焦点化が行われた。 ・特色ある学校づくりで、取り組もうとする内容をテーマ化したことで、児童生徒がより豊かな学校生活を過ごせるようになった。 ・成果については、各学校で設定した2～4項目の観点から、活動の観察やアンケート、学校評価の結果等を5段階で評価した。各観点の平均は4.1となった。(H22年度4.0) ・地域の伝統文化を継承する活動に取り組み、地域の方々とふれ合うことにより、地域理解を深め、郷土を愛する心、優しい心を育むことができた。 ・地域の特産物を生かした商品開発や販売などを生徒の発案・企画で展開し、地域の方々との交流も図りながら行っている取り組みもある。体験活動を通し、成就感・達成感を味わい、社会性を広げている学校が複数ある。 ・地域の特産物の栽培活動や、地域のクリーン作戦等の環境美化活動を通して、命の大切さや思いやりの心、奉仕の心を育てることができた。 								
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<ul style="list-style-type: none"> ・各校の独自性や主体性がいきるように、事業のねらい・内容・予算及び実施後に期待される成果等を具体的に明示した計画書の提出を各校に求める。また、計画に基づいた実施及び報告になるように確認していく。 								

基本的方向	Ⅱ 世代を超えてまなびあう
基本施策	6. 生涯学習の充実
施策	生涯学習社会の基礎づくり・学習機会の提供・地域活動の活性化
担当部署	社会教育課

事業の目的及び目標

【目的】

- ・市民が、「いつでも」「どこでも」「だれでも」気軽に生涯学習ができるよう各種講座等を開催する。
- ・各種教育機関や関係機関と連携し、社会の変化に対応した必要な課題に関する学習機会の提供を図る。
- ・教室・講座の自主サークル化を促進し、サークルリーダーの育成と指導者の養成を図る。

【目標】

項目	26年度	31年度
生涯学習事業の満足度	83%	85%以上

H23年度 主な事業の概要及び実施状況

○生涯学習推進講座開催事業【予算額 6,728千円】【決算額 6,125千円】

市民がいつでも、どこでも、だれでも気軽に生涯学習できるよう、幼児から成人までの幅広い年代層を対象とした講座を47講座、611回開催して、延べ参加人数は35,575人となった。（詳細は別紙資料P.32参照）

各時期等	講座数	実施回数	延べ参加人数(人)
幼児講座	4	22	1,188
少年講座	8	404	9,410
青年講座	6	29	288
成人講座【教養・文化・健康講座】	15	68	1,284
家庭教育講座	4	66	3,755
指導者養成講座	4	15	239
催し	6	7	19,411
計	47	611	35,575

※成人講座に東北公益文科大学市民大学講座・出前講座を含める。

- ・東北公益文科大学市民講座は現代的課題を選定し、地域づくりについて学ぶ機会を提供した。

事業の効果

- ・各世代の課題に対応した講座を開催し、多くの参加者を得ることができた。満足度は87%となって、目標を達成できた。
- ・出前講座は、各団体、サークル等のニーズに沿った講座を開講することができた。受講団体には大変好評であった。
- ・成人趣味教養講座の受講者から、平成23年度は3つのサークルが発足し、生きがいづくりと仲間づくりの動機づけ、サークルリーダーの育成が図られた。

点検結果・自己評価(課題・方向性)

- ・現代的課題に対応した講座で受講者が少ない。
- ・学んだことを地域や社会に還元するような仕組みができていない。
- ・参加者のアンケートなどから各年代の課題や住民のニーズを把握するとともに、各事業終了後に評価を行い、事業の見直しを行っていく。
- ・個人の要望と社会の要請による講座開催のバランスを考慮しながら講座編成の見直しを行っていく。
- ・東北公益文科大学市民大学講座は、比較的高い年齢の方々や継続して受講する市民が多いことから、広範な年齢層の参加が得られるよう検討していく。また、講座受講生間の仲間づくりについても支援できるよう、講師と相談しながら講座内容の充実を図る。
- ・学んだ成果を有効に活用できるよう、相談・支援体制の充実を図る。

基本的方向	Ⅱ 世代を超えてまなびあう		
基本施策	6. 生涯学習の充実		
施策	学習団体及び社会教育関係団体への支援と連携		
担当部署	社会教育課		
事業の目的及び目標			
・生涯学習団体による自主活動を推進するための運営に対して支援する。			
H23年度 主な事業の概要及び実施状況			
○生涯学習振興支援事業：【予算額 799千円】【決算額 799千円】			
	補助団体	補助金額	活動内容
	酒田市子ども会育成連合会	90千円	各学区総会や関係団体会議への参加、子どもまつり参加、リーダー学習会、会報発行ほか
	酒田海洋少年団	144千円	子どもまつり参加、通常訓練、合宿訓練、東北地区指導者研修会ほか
	酒田市婦人会連絡協議会	330千円	酒田・飽海地方婦人大会、研修会ほか
	酒田市青少年を伸ばそう市民会議	135千円	青少年の健全育成に係る会員研修、街頭啓発活動、巡回指導、会報発行ほか
	酒田市白鳥を愛する会	100千円	自然環境づくり(マコモ植栽)、花植え環境整備、白鳥観察会ほか
○生涯学習施設「里仁館」支援事業【予算額 7,300千円】【決算額 7,300千円】			
教養講座や親子講座、特別講座等で、47テーマ、開講数106回、延4,747人が受講した。			
事業の効果			
<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会育成連合会の支援を通じ、団体の行なう、リーダー育成 危険訓練により、市の単位育成会における危険予知活動の実践、安心安全マップ作り等により子どもたちの安心安全な生活の実現に資することができた。 ・青少年を伸ばそう市民会議の支援を通じて、青少年育成環境浄化や啓発活動の徹底が図られた。 ・白鳥を愛する会が中心となって行っているマコモの植栽等により、白鳥が飛来する自然環境が整えられ、市民が白鳥の生態を観察する機会が増えている。 ・その他、生涯学習振興支援事業による補助金の交付で、それぞれの団体の活動の活性化に資することができた。 ・生涯学習施設「里仁館」支援事業により、里仁館の主催事業を通じ、庄内地域の生涯学習の振興が図られた。 			
点検結果・評価(課題・方向性)			
<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習団体が主体的に実施している有益な教育活動に対し、引き続き運営費に対する支援を行っていく。 ・里仁館は、平成23年度に10周年を迎え、今後の10年を見据え当面する5年間の目標を定める第2次振興計画を策定し生涯学習の振興を図っていることから、引き続き運営費について支援を行っていく。 			

基本的方向	Ⅱ 世代を超えてまなびあう
基本施策	7. 図書館活動の充実
施策	図書館機能の充実
担当部署	図書館

事業の目的及び目標

市民の生涯学習の拠点として、図書資料や窓口サービスの提供等を通して、知識や教養の習得機会を提供する。

項目	算出方法	22年度	23年度	5年後 (26年度)	10年後 (31年度)
図書館利用状況	館外貸出冊数	563,882冊	569,505冊	587,000冊	667,000冊
	館外貸出人数	156,330人	155,163人	160,000人	165,000人

H23年度 主な事業の概要及び実施状況

○新刊図書の購入

一般図書等 10,157冊、児童図書等 2,620冊、雑誌等 1,990冊を購入し提供した。

○お話し会や各種講座の実施

- ・児童図書室での定例のお話し会は23回実施し、延べ359人の児童と保護者が参加した。
- ・読み聞かせボランティア講座は、8回実施し延べ102人が参加した。
- ・「おやこ読み聞かせ教室」は、11回開催し延べ84組(174人)の乳幼児と親子が参加した。

○講演会の実施

絵本作家の講演会には41人が参加した。

○図書リサイクルの実施

除籍本の無償譲渡を行い、348人の個人が参加した。

○インターネット等による予約件数は、年々増加しており、19,455件から20,158件となった。

事業の効果

- ・魅力的な新刊図書の提供や講座等の開催、窓口サービスの向上に努めていることにより、貸出冊数は前年度より増加しており、このうち児童図書の伸びが大きい。
- ・「おやこ読み聞かせ教室」は、乳児と親子のふれあいの場の提供になっただけでなく、児童図書室のPRの場にもなり、児童図書の貸出冊数の増加につながった。
- ・お話し会の実施は、幼児期からの読書習慣の形成につながることが期待される。
- ・各種講座や絵本作家の講演会、また図書リサイクルなどの開催により、図書館活動に多くの人の関心を得ることができ、利用人数の増加が期待できる。
- ・ホームページでの資料の公開や予約システム機能が、多くの利用者に利活用され好評を得ている。

点検結果・自己評価(課題・方向性)

- ・目標数値は、5年後の目標値を達成しうるペースで伸びており、今後もペースを維持できるように、新刊紹介や企画展示、児童図書室のPR等に努力するとともに、施設についても検討を進める。
- ・郷土資料の充実のため、引き続き資料収集等を図る。
- ・レファレンスシステムのデータ管理等を適切に行い、迅速なカウンター業務を行う。
- ・機器の耐用年数を考慮し、より使いやすい機能等を備えた図書システムへの更新を検討する。

基本的方向	Ⅱ 世代を超えてまなびあう														
基本施策	7. 図書館活動の充実														
施策	光丘文庫の保全と活用														
担当部署	図書館														
事業の目的及び目標	<p>大正14年に竣工され、平成8年には酒田市指定有形文化財に指定されている歴史的な建造物であり、その維持・保存を行う。館内には、本間家三代当主の本間光丘の時代から収集された古文書等が数多く所蔵されており、その分類・整理をはじめとして、資料を活用した企画展示を行う。</p> <p>また、これらの貴重な資料の閲覧に訪れる全国各地からの来館者への対応やレファレンス業務を行い、資料を適切に管理し、あわせて利用者の拡大を図る。</p>														
H23年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○所蔵古文書の整理・分類・保存の他、企画展示、利用者への案内・説明等を実施した。全国的にも貴重な資料であるため、多くの専門家が訪れている。</p> <table border="1" data-bbox="284 768 1066 972"> <thead> <tr> <th>算出方法</th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> <th>23年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入館者数</td> <td>2,553人</td> <td>4,509人</td> <td>4,658人</td> </tr> <tr> <td>利用者数</td> <td>320人</td> <td>304人</td> <td>333人</td> </tr> </tbody> </table> <p>常設展示(17ケース)「石原莞爾旧蔵書展」(4月12日～9月25日) 「江戸期の庄内～町・村のしくみ～」(10月28日～2月29日) 「雛人形 雛祭りの歴史」(3月3日～4月3日)</p> <p>レファレンス処理件数 49件</p> <p>○資料館移管資料及び国書追加寄贈分資料等の目録整理を実施</p> <p>○館報「光丘」を年2回発行した。(第139号 8/1、第140号 2/1)</p>			算出方法	21年度	22年度	23年度	入館者数	2,553人	4,509人	4,658人	利用者数	320人	304人	333人
算出方法	21年度	22年度	23年度												
入館者数	2,553人	4,509人	4,658人												
利用者数	320人	304人	333人												
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・施設案内表示や常設展示のPR方法の工夫により、入館者数及び利用者数の増加となった。 ・遠方から来館される研究者の方々にも必要な資料を提供できた。 ・郷土資料の保存整理の一環として、諸家文書目録Ⅶの発行に向けて資料整理が進んでいる。 														
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数及び利用者数が引き続き増加となるように、常設展示のPR方法等を工夫する。 ・専門機関による本館建物の現状調査と保全計画作成を実施する。 ・郷土資料の保存整理と利用者への提供は図書館の重要な業務であり、保管している文書等について、継続して目録を整理・発行する。 														

基本的方向	Ⅱ 世代を超えてまなびあう														
基本施策	7. 図書館活動の充実														
施策	子どもの読書活動の推進(再掲)														
担当部署	図書館														
事業の目的及び目標	<p>子どもが気軽に読書に親しめ、読書活動が活発になることを目指して、子どもの読書環境を整える。</p> <table border="1" data-bbox="347 517 1378 707"> <thead> <tr> <th>算出方法</th> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>目標 (27年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童図書の間貸出冊数</td> <td>171,867冊</td> <td>179,353冊</td> <td>183,000冊</td> </tr> <tr> <td>学校団体貸出の間貸出冊数</td> <td>2,038冊</td> <td>2,382冊</td> <td>3,000冊</td> </tr> </tbody> </table>			算出方法	22年度	23年度	目標 (27年度)	児童図書の間貸出冊数	171,867冊	179,353冊	183,000冊	学校団体貸出の間貸出冊数	2,038冊	2,382冊	3,000冊
算出方法	22年度	23年度	目標 (27年度)												
児童図書の間貸出冊数	171,867冊	179,353冊	183,000冊												
学校団体貸出の間貸出冊数	2,038冊	2,382冊	3,000冊												
H23年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○「酒田市子ども読書活動推進計画」に基づいて各種事業を実施した。あわせて、様々な機会をとらえて計画の周知を行った。</p> <p>○ブックスタート事業(主担当:子育て支援課)に対する図書館のフォローアップ事業として、乳児と保護者を対象とした「おやこ読み聞かせ教室」を実施した。</p> <p>○絵本作家による講演会を実施し、親子で絵本に親しむ機会を提供した。</p> <p>○児童図書の貸出冊数は、前年度より約7,500冊の増加となり、学校への団体貸出冊数も増加した。</p> <p>○小・中学校からの要望により、調べ学習等へ協力した。</p> <p>○乳幼児をはじめ、小学校の低学年・高学年、また中学生の各年代に適した選書を行った。夏休み期間は、課題図書や指定図書の他、作文・工作・自由研究などの分野別の展示コーナーを設けて、資料の提供を行った。</p> <p>○児童図書室に、読み聞かせ向けのお薦め絵本コーナーを設置し、各団体からも利用いただいた。</p>														
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート事業は参加者に好評であり、絵本や読み聞かせに関心を持っていただくことができた。 ・ブックスタート会場での「赤ちゃんの絵本ガイド」の配布、お話し会や読み聞かせ教室のPR等のほか、児童図書室の広報により、児童図書の貸出冊数の増加につながった。 														
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども読書活動推進計画の取り組みにおいて、実施計画を作成し進行状況を把握する。 ・乳児とその保護者という利用者層に対しての情報提供等を検討する。 ・保育園等への情報提供として、お薦め絵本のブックリストを作成する。 ・学校への団体貸出の利用増加や図書館のPRを兼ねて、学校向けパンフレットを作成する。 ・小中学校図書館での図書システム導入を踏まえて、児童図書関連の情報提供等を検討する。 ・レファレンスシステムの導入により、特に児童・生徒からの相談業務を充実させるため、随時内容を精査する。 														

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす
基本施策	10. 歴史・文化遺産の保存と活用
施策	文化財等の保存と活用
担当部署	社会教育課

事業の目的及び目標

文化財の保存と活用を図るため、有形文化財の適正な管理及び無形文化財等の保護・継承を担う人材や団体を育成・支援する。
「民俗芸能フェスタ」などの各種事業を実施し、伝承活動を支援するとともに、地域に所在する文化財保護の重要性について、資料館や文化伝承館などの企画展示を通じて、市民の理解を深めることに努める。

H23年度 主な事業の概要及び実施状況

- さかた歴史街道事業【予算額 1,865千円】【決算額 1,755千円】
 - ・市内各地域に残されている身近な文化財等の再発見事業として「史跡めぐり 古絵図から旧町名をたどる」を開催し、市内中心地の成り立ちと現在の町並みに至る過程を学習した(参加者20人)。
 - ・「民俗芸能フェスタ」や「黒森歌舞伎酒田公演」を開催し民俗文化財の振興を図った。
民俗芸能フェスタ H21 900人、H22 972人、 H23 810人
黒森歌舞伎 H21 900人、H22 521人、H23 513人
- 文化財保存活動支援事業【予算額 1,025千円】【決算額 1,025千円】
 - ・「酒田市民俗芸能保存会」加盟団体にアンケート調査を実施し、後継者育成問題などの課題の把握に努めるとともに、今後の支援の参考とした。
 - ・長年の民俗芸能保存継承活動に対する功労者の顕彰を行うとともに、各地域における上演日や演目などをまとめたプログラムを作成するなど加盟団体を広く市民に紹介した。
H21 31団体、H22 31団体、H23 32団体
- 文化財等管理運営事業【予算額44,714千円】【決算額42,971千円】
 - 史跡や指定文化財を広く市民に公開し、地域の歴史や文化財への理解を深めるきっかけづくりのため、各種の企画展示事業を開催し、観光資源としてもPRに努めた。

文化施設入館者数 (単位:人)

施設名	H21	H22	H23	備考
旧燈屋	24,739	17,141	16,051	企画展 年4回
旧白崎医院	3,158	2,458	1,947	
旧阿部家	3,310	2,949	2,984	企画展示ほかイベント開催
資料館	7,189	7,458	5,645	企画展 年6回
文化伝承館	4,373	4,053	3,274	企画展 年5回

事業の効果

・文化財を適正に管理保存するとともに、各企画展示事業の実施により、多くの市民へ文化財をPRすることができた。
・「民俗芸能フェスタ」は42回を数え、民俗芸能の保存継承だけでなく、地元団体と、他県や市外の民俗芸能団体との相互交流や情報交換の場として重要な役割を果たした。幼児から高校生まで出演機会の提供に努め、民俗芸能の底辺拡大を図ることができた。

点検結果・評価(課題・方向性)

・文化財は地域の貴重な財産であり、後世に継承・保存していくために、一層の周知が必要である。
・新たな関心層の掘り起こしを強化し、市民が保存継承への理解を深めるための機会の提供を行う。
・文化財の保護・継承を行う人材や団体の育成・支援を行う。
・市民参加型のソフト事業などにも取り組む。
・震災等による影響もあり、施設入館者数の減少傾向が続いている。
・魅力ある企画展示などを実施し、入館者増をめざす。
・市指定文化財の所有状況について、引き続き現況を確認し、文化財の保存と災害等からの保護について理解を深めてもらうように努める。
・民俗芸能保存会と連携して、後継者育成や未加盟団体の加盟促進等、課題解決に向けて支援を行っていく。

地域の教育力向上事業実績

コミ振名	主要事業内容	事業数	参加人数 (人)	決算額 (千円)
西荒瀬コミュニティ振興会	育てよう！わくわく夢の森(学習林である、クロマツ林の手入れと学習)花いっぱいフレンドリー活動(地区民・小学生・保育園児と一緒に花植え)日向川源流体験(日向川の恩恵を学び、自然を大切にすることを養う)ふるさと産品調理教室(子どもたちに地場産品を主にした食物のおいしさを伝える。)干し柿づくり(児童が作製し、高齢者の一人暮らしへ配布)鮭料理教室(日向川で捕獲した鮭を使った料理を学ぶ)	6	494	249
新堀コミュニティ振興会	3世代交流(稲作、俵あみ)、最上川自然探検隊(最上川川下、刺し網、カニ漁)伝統芸能伝承(五力村神楽舞)、世代間交流(七夕まつり、凧づくり)	5	691	300
広野コミュニティ振興会	旧跡を尋ねて(旧跡、神社の歴史)、ふれあい花植え(広野小校門花壇の花植え)、紅花を育てる(紅花の栽培、加工)、陶芸に親しむ(陶芸体験)、餅つき体験、縄ない体験、庄内出羽人形学びと体験、手作り体験(うどん、おもちゃの手作り体験)	8	560	300
浜中コミュニティ振興会	少年少女茶道教室、子育て研修会、浜中・黒森交流会、スポーツ教室	4	779	300
黒森コミュニティ振興会	孫親学級(昔の遊びや工作体験)、浜・黒6学年交流会、三世代くろもりんピック(軽スポーツ)少年ふれ太鼓、少年歌舞伎・太鼓練習会、あつたか年越し大作戦(地域高齢者へのボランティア活動)、黒森っ子子育てネットワーク(上映会)	7	426	300
十坂コミュニティ振興会	とさつこめぐりん(野菜の収穫体験学習等、読み聞かせ交流)、三世代交流(昔の暮らしの体験談)、親子ふれあい健康講座(調理実習等)、ハンジーサークル(調理実習)	4	490	256
東平田コミュニティ振興会	農作業体験(稲作)、自然とのふれあい(魚釣り大会)、歴史郷土体験(登り窯による陶芸づくり)、孫親とふれあい(高齢者との交流事業)	4	260	240
中平田コミュニティ振興会	一坪菜園(親子で作物栽培)、おぼけかぼちゃハロウィンコンテスト、子ども神楽(手蔵田神楽)、どんぐりの読み聞かせ会	4	355	300
北平田コミュニティ振興会	北風っ子クラブ(施設研修、調理実習、作品づくり講座)、園児の茶道体験、お化けかぼちゃ・ひょうたん作り(地域協力による小学生卒業記念品製作事業)、ひなまつり集会(小学生の茶道教室)	5	371	300
上田コミュニティ振興会	花いっぱい運動(植栽から除草、水かけ作業まで通年で展開)上田3世代交流(畑での野菜栽培～料理講座)上田太鼓教室	3	816	300
本楯コミュニティ振興会	ふるさと文化学習事業(地域の歴史を学ぶ、ハムベーコン作り)ももたてグローバル・スタディ事業(稲作体験、サクラマス放流、花の栽培と舞茸育成)ももたて地域つながり事業(ボランティア講習会、世代間交流、通学合宿)	3	1484	300
南遊佐コミュニティ振興会	ホテルのタベ、まなびの里教室(刺し子、英会話、フラダンス、ヨットなど)、ふれあいグラウンドゴルフ、木工教室、とびだせペーパークラフト、すくすくみんなで交流大会(老人クラブと保育園児の交流)、チャレンジそば打ち体験、卒業お茶会	8	590	300
一條コミュニティ振興会	子どもでつなぐ絆事業通学合宿、子どもでつなぐ絆事業自然体験活動(そばの栽培、そば打ち)手作り探検隊(栽培から調理まで一連で実施)	2	362	300
観音寺コミュニティ振興会	にこにこ体験隊(稲作、生き物観察、カヌー体験、ネイチャークラフト、芋煮、だんご木作り、雪中カルタ等)、絵灯籠作り	2	275	300
大沢コミュニティ振興会	大沢地区地域交流会(太鼓演奏、料理教室等)、大沢清流太鼓活動、大沢地区通学合宿、畑の学校(サツマイモ等)	4	698	300
日向コミュニティ振興会	日向ぼっこスクール(畑作、ほたる観賞、日向川の学習、地域学習、秋祭り等、干し柿作り、クリスマス事業、雪まつり等)	8	329	300
南部コミュニティ振興会	地見っ子ふれあい協議会(自然体験、施設見学、雪中ゲーム、スノーランタン)高齢者世帯にクリスマス、通学合宿、手作りおやつ、ふれあい音楽会、伝統芸能鑑賞会、そば打ち(そばの栽培から、収穫、そば打ちまで)	7	638	300
山寺コミュニティ振興会	作物栽培と料理講座(米、豆、さつまいも、豆腐づくり)、読み聞かせ事業、伝統芸能文化伝承(狂言、茶道、生け花等)、親子体験、ホテルの里ウオッチング、チャレンジ講座(早起き体操、出羽人形芝居指導、ケーキ作り)、小動物と触れ合おう	9	1229	300
松嶺コミュニティ振興会	チャレンジ教室(野菜作り、早起き体操、茶道、親子お菓子づくり、書初め、ふれあいスポーツ)	6	380	300
内郷コミュニティ振興会	木工教室、内郷学区通学合宿、親子料理教室、新社会人ボランティアフェスティバル	4	58	280
田沢コミュニティ振興会	中学生サークル活動、地元体験事業(絵手紙、リース作り等)、刺し子教室、地元施設でのコンサート	4	176	300
東陽コミュニティ振興会	野焼き体験教室、東陽通学合宿、農業体験・料理教室(そば)、花まる交流会(花植え等)	4	240	300
郡鏡・山谷コミュニティ振興会	宿泊研修、水生生物学習会、縄ない体験と干し柿づくり、料理教室	4	80	175
南平田コミュニティ振興会	伝統芸能伝承(飛鳥祭奴振り・檜橋神代神楽)、さしこ教室	3	419	100
砂越・砂越緑町コミュニティ振興会	通学合宿、体験事業(科学マジック教室、竹細工、篆刻、石けんづくり、バイオセンター実験教室、竹細工)、お菓子づくり教室(笹巻き)	7	183	295
計		125	12,383	6,995

生涯学習推進講座開催事業実績

区分	事業名	実施回数	人数
幼児	孫と一緒にリトミック	4	112
	わくわくちびっこ広場	3	390
	わらべのひな祭り展	13	587
	親子でヒップホップダンス	2	99
少年	さかたっ子・チャレンジ冒険団	3	40
	酒田マリーニジュニア合唱団	44	975
	新春書初め・もちつき大会(正月行事)	1	131
	わいわい出前講座	9	1,030
	子どもお菓子づくり	2	32
	特別出前講座「わたしたちの先輩」	3	237
	地域人材交流講座	340	6,918
	ほしぞら教室	2	47
青年	コア・コンディショニング	5	49
	スイーツ男子と女子のためのお菓子作り	5	36
	基本の料理	10	147
	浴衣DEおでかけ	5	24
	マクロビオテック	3	22
	新成人のマナー講座	1	10
	デジタルカメラ入門	4	64
成人	ピラティス&ヨガ	9	200
	楽しい日本酒ワールド	5	67
	忙しい日の時短ごはん	5	89
	傘福をつくろう	5	28
	フラダンス入門	5	80
	物づくりを楽しもう	5	22
	楽しい書	5	49
	HAPPYアロマセラピー	5	78
	心をつなぐラッピング講座	2	34
	すっきり片づけ家事講座	1	19
	男のラーメン講座	3	42
	東北公益文科大学市民講座(市民大学:昼の部)	5	156
	東北公益文科大学市民講座(市民大学:夜の部)	3	77
	東北公益文科大学市民講座(出前講座)	6	279
家庭教育	さんさん学級	6	138
	すくすく出前講座	31	1,717
	地域家庭教育講座	26	1,776
	家庭教育セミナー	3	124
指導者養成	少年団体リーダー研修会	2	82
	ホール音響・照明操作講習会	9	124
	16ミリ映写機操作講習会	1	4
	地域の教育力向上スキルアップ講座	3	29
催し	出羽遊心館春の市民茶会	1	386
	文化講演会 期日 平成24年2月26日 講師 舞の海 秀平 氏 演題 『夢をつかめ～可能性への挑戦』	1	362
	生涯学習まつり2011 期間 平成23年10月14日～16日 参加団体71団体 会場 総合文化センター	3	17,179
	正月行事展	1	1,284
	凧揚げ大会		中止
	酒田マリーニジュニア合唱団定期演奏会	1	200
合計		611	35,575

年度	講座数	実施回数	延べ人数
22年度	52	629	37,118
21年度	44	690	39,829

東北公益文科大学市民講座実績(内訳)

・市民大学講座

年間テーマ 23「災害と人の暮らし」		
昼の部テーマ「今！地球では・・・災害に備えた地域づくり」		
区分	演題	受講者数
1	心理特性を踏まえた減災への取り組み	35
2	地方都市の低炭素社会実現への課題と解決策	30
3	復興に向けた新たな社会技術の開発	33
4	災害時に発生した廃棄物の処理及びリサイクルについて	29
5	ご近所つき合いを良好に保つ方法	29
計		156

夜の部テーマ「人と暮らす・・・自分に出来ること」を考察する		
区分	演題	受講者数
1	市民の皆さん、酒田をどんな街にしたいですか	26
2	被災地から学ぶ福祉まちづくり	28
3	頼っていいのかインターネット	23
計		77

22年度	講座数	受講者数
昼の部	3講座	158
夜の部	3講座	88
21年度	講座数	受講者数
昼の部	5講座	269
夜の部	5講座	108

・出前講座

区分	テーマ	受講者数
1	地域の福祉力向上を目指して	55
2	震災後の復興に向けて市民レベルでの支援、果たすべき役割とは～男女共同参画の視点から～	94
3	ロンドンとテムズ河	16
4	一人暮らしの見守り方、近隣との付き合い方	40
5	自主防災と福祉について考える	43
6	地域で暮らす幸福感	31
計		279

年度	回数	受講者数
22年度	6回	197
21年度	6回	201